短編集やシリーズやらやら

fuki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
短編集やシリーズやらやら

【Ｎコード】
Ｎ１５８５Ｚ

【作者名】
ｆｕｋｉ

【あらすじ】
もそもそと書いた短編集です。きっと続かないだろうなという意識の元の単なるネタ投下です。話しは繋がってないことが多い。ばっらばらに更新する場所。育つことないバラ撒かれた種が辿り着く先、星屑の街。

星屑の街、案内人との出逢い（前書き）

星屑の街、案内人が参りますので暫くお待ちください。

星屑の街、案内人との出逢い

瞳を開けるとそこは、仄暗かった。
私は大きな光輝く大きな川の上に佇んでいた。
果てしなく空が遠く信じられないほど川が近い。

黄の光、赤の光、緑の光が気儘に混ざり合ってシャボン玉のように滑らかに溶け合っては色鮮やかに尾を引いて光芒を描いていき、光輝な川の中、金の魚が悠然と水紋を揺らし私の足下を抜けていった。

どこまでも深い深い光の淵。
闇は底なく、光も底ない。ただそこに広がるだけだ。深淵なる光と闇。

「・・・ああ、」

遠くに見えるのはなんだろうか。光の雫がぽつぽつと落ちて、私は天を見上げた。魚を誘う篝火。精霊に備える灯火。光雨。

どこかで音色が聞こえる。
嗤う匂う泣く蔑む瞑る笑む啜る嬉し惑う祈る包む怒り紡ぐ啼く誇し唄う叫ぶ快くひたひたひたひたと。

見上げたさきの暗闇のなか捻れた朱い月に鳳凰が嗤った。ガラクタばかりの宝箱が如く不思議な世界。チクタクと時計を持った兎が忙しそうに横切って、足下を泳ぐ蛙がぷくぷくと泡を吐き出した。いまだにふる雫の向こう。歪んだ浮船に降り立った三叉鴉が光を啜り、黒猫がはんなりと舞う蝶を追って光の川を駆けた。

ふりつづく光の雫がぽつぽつぽつぽつり。魚を誘う篝火。精霊に備える灯火。光雨。嗤う匂う泣く蔑む瞑る笑む啜る嬉し惑う祈る。光に攫われてしまうと魂が点滅する。包む怒り紡ぐ啼く誇し唄う叫ぶ快く。赤黄青光金の魚朱い月鳳凰時計兎蛙三叉鴉黒猫蝶光光雫雨が歪み捻れて聞こえるのはもはや、ひたひたひたひたひたひた。

「星露にあたるのは良くないよ」

――降り注ぐ光のまにまに。玉響に、音が絶えて。翳されたのは鳶色の一つの古びた番傘。和紙を滑って雫が瞳を見開いた私を避けて垂落する。ざわついた聞き苦しい音たちはすっと消えて。柔らかな音が耳朶を震わせた。

美しく見えてもそれは全ての終わり、絶えた望み、諦めの雫。
ここは、そんなモノの辿り着く終着点。ごみのように打ち捨てられたモノがただ鈍く光る星屑の街。星屑たちは、呑み込むのを待っている。

ここで独り光の渦に呑み込まれるのを永遠と待つか、それか今ここで俺に捕らわれるか。

「それでも構わないのなら、着いておいで」

そっと差し出された掌に重ねるために伸ばした手が、大きな掌に触

れて。私はその温もりに鮮やかに攫われた。

（意識がなくなる瞬間、ぱりんとひび割れる音がした。）

星屑の街、案内人との出逢い（後書き）

案内人、星屑の街より一人ご案内。これより短し様々な世界へとお連れ致します。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1585z/

短編集やシリーズやらやら

2011年12月5日18時58分発行